

学長メッセージ

「創設者の精神の継承と大学教育の充実に向けて」

天使大学 学長 丸山 知子

昨年4月に学長職を拝命して、はや1年になります。これまで、天使大学が社会に貢献する看護職および管理栄養士の専門職業人育成を掲げる大学教育機関として、今後どうあるべきかを見据えながら現状について見直しを行って参りました。まだ十分な検討に至っておりませんが、今年度も引き続き検討し、新しい課題に向かって教職員一同力を合わせて努力して参りたいと思います。大学の主役は学生であり、彼らが現代および将来、社会で活躍できる人間としての成長と職業人としての能力を培うために大学環境を整えなければなりません。そのためにも、社会や大学を取り巻く国内外の情勢を的確に把握し、学生のニーズと専門職に期待されている社会のニーズに沿った大学教育でありたいと考えます。

本学の教育環境の根底には、いつも創設者であるシスター達の「弱い立場や病める人達への献身的な愛の精神」があります。そのことを意識し、その深奥を探究しつつ継承していきたいと思います。2011年3月11日の世界最大級の東日本大震災の悲惨な状況は今も続いております。この痛ましい出来事を通して、自分の命は自分だけのものではないことを実感せずにはいられません。そして、命に直結する職業人を育成する本学の使命は、シスター達のゆるぎない大きな愛の精神を礎に知識と技術の修得を目指すものでありたいと考えております。

新年度は、昨年度に引き続き本学の特色を生かした教育課程の内容と将来の方向性を明確にし、実践可能な課題から取り組んでいきます。例えば、学部共通プログラムの検討や栄養学科学生と看護学科学生の合同による、健康や病気に対する食事レシピ集等、学生主体の事業を積極的に取り入れたいと考えております。教育にとって最も大切なことは、学生一人ひとりの能力をどこまで、どのように引き出せるかです。学生の限りない可能性の芽をつぶすことなく、将来、大きな木に成長できるように育てる教育環境でありたいと考えます。そして、そのためにも、教職員全員は各々が成長し続けようとする気持ちを持ち続けることを忘れてはならないと思っております。

2011年度は昨年度継続の課題およびさらなる現状分析を基に、学生の学習環境の整備、学生の経済的支援の在り方、各委員会機能の活発化、組織の透明性や積極的な情報公開等を中心に、学生、後援会、同窓会、そして大学関係者の皆様方のご意見を頂きながら内外両面から検討して参りたいと考えております。

2011年3月15日の卒業証書・学位記授与式当日、学生会「葦の会」(代表:菊地翔平(看護学科3年))は、東日本大震災への募金活動を行い、ご出席くださいましたご家族の方々から多くのご協力を頂きました。そして、この活動は4月4日の入学式当日(新代表:古谷開都(栄養学科2年))も行われました。このように学生達が自ら「出来ることから行動する」力によって、社会に、他者のために役立つことを支える教育環境づくりに取り組んでいきたいと考えております。



募金活動を行う「葦の会」の学生たち